

令和2年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第四中学校第2学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文脈を考えて語句を使う力。 目的に応じて自分の考えを書く力。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識である文法や漢字の学習を積み重ねるとともに読書に親しみ、語彙力をつけていく。 	<p>漢字学習の定着のため毎時間の10問テストとやり直しノートの作成を課題としているが、丁寧に取り組む生徒が増えてきている。語彙力を付けるための視写ノートの取り組みも丁寧に行えるようになった。</p>
数学	<ul style="list-style-type: none"> 乗除混合計算の計算順序 数量関係を表した式中の数字の意味の理解 比例、反比例の増減の理解 問題に対して何を問われているかを読み取れていない 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物などの具体例から式を示し、式の作りを考えさせる。 表、式、グラフを一体化させるために、具体例から式を作り説明する。 問われていること確認することを繰り返し指導する。 	<p>生徒同士で教え合いが出来る集団で対話的な活動を通した学びができた。</p> <p>問われていることを意識して答える生徒が多く、ミスが減った。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> 中世の文化の特徴 中世の時代の流れ 	<ul style="list-style-type: none"> 中世の時代の流れの図式化 時代背景と文化をつなげて教えていく 確認、復習を反復 	<p>生徒同士の意見交換などによって理解を深めることができた。自ら進んで学ぼうとする姿勢をいかに構築するかが課題である。</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> 関心をもって意欲的に学習に取り組み、課題を解決しようとする姿勢を育成する。 自然事象についての知識・理解の定着をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事象を話題にとり上げて、学習への関心を高め、グループ活動をと入れ自ら考えて解決する機会を増やす。 復習ワークシートへのとり組みや、小テストを継続的におこなって知識の定着をはかり、理解を深めていく。 	<p>授業での学習内容が生活の中の事象と結びつくようにしていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでの話し合い活動により、一人ひとり考察することができるようになった。 復習ワークシートに積極的に取り組むことができる生徒がふえた。知識が定着していくように、取り組みを継続していけるように声かけていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、歌唱を伴う授業の際の制限や、マスク着用での歌唱における、生徒の発声法の確認の不十分さや、生徒の表現意欲低下。 教え合うペアワークの実施の際の感染予防策。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱に関しては、生徒間の距離を保ち歌唱することや、フェイスマスクを着用して歌唱することなどの具体策はあるが、そこまでのリスクを抱えながら取り組むべきではないと考えるため、現在のところ改善するつもりはない。 	<p>コロナ禍における学習計画の変更、歌唱や器楽活動などの制限により、新たな授業の組み立て方や、評価の見方が発見できた。今後も感染症予防対策が学習活動に継続して求められる可能性が高いので、新学習指導要領に則り授業を展開していく。特にタブレットを使用した授業を研究してきた。</p>
美術	<p>きちんと制作に取り組む生徒が多く、完成の喜びを感じる積み重ねがある。</p> <p>今年度は、構想を練る段階で互いの意見や感じ方を交流することが少ない。また、作品の発表や交流の機会が少ない。</p>	<p>構想を練る段階で、ワークシートやビクトマップに書き込む活動を増やし、言葉から形にイメージを具現化する経験を増やす。</p> <p>鑑賞の機会を少しでも多くするために、教室や廊下の展示を工夫する。</p>	<p>2年生では、構想を練ったりその構想につながる意見の交換を大切にできなかったが、作品の発表や交流の機会が少ない1年だった。次年度以降は、ICT機器などを使った意見交換、作品交流ができるとよいと考えている。</p>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 1500m走がとて遅い。6分を切る生徒が少ない。 グラフや資料を読み取り自分の考えを述べたり、記述したりすることが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で毎時間走り込みを行い、持久力の向上に努める。 グラフの見方、資料の読み取り方を授業内で丁寧に行う。与えられた課題に対して、考えるクセをつけさせる。 	<p>2度目の緊急事態宣言などで、運動の工夫が凝らされる1年であった。また、保健などでは思考力を高めるために、個人で考える時間、話し合いの時間を分けて行うことができた。記述もできるようになってきている。</p>
技術・家庭	<p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年に比べて授業への集中力が向上したが、能力の開きは感じる。 手先の器用でない生徒が少なくない。 <p>(家庭科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関心や意欲の度合いに差があり提出課題がそろわない 今年は調理実習をやっていないので体験学習の技術・協力面の指導が不十分になっている。 	<p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別教室の環境について意識してみた。ICT機器の環境があると生徒の理解につながる。 反復練習用の課題を盛り込んだ。 <p>(家庭科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題学習を取り入れ、意欲を高めるようにする。 実習内容を理解させるよう教材を工夫し、見本を取り入れて意欲を持たせるようにする。 	<p>(技術科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 座席の移動などについて繰り返し指導する必要はあったものの学習への集中に関しては向上が図られた。環境の整備については継続課題である。 はんだ付けの練習など、反復練習について効果を感じることができた。 <p>(家庭科)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で食物領域の実習をできなかったことで、意欲、関心を高める工夫をした。提出課題の内容も高まり、関心はあると思う。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> 過去形、未来形、There is There are 動名詞の活用 まとまった量の文章読解 簡単なやりとりの発話 まとまった量の文章の聞き取り 	<ul style="list-style-type: none"> 英検IBAの結果から昨年度の同学年より大きく点数が上回る。 4領域バランスよく力を伸ばしている。 	<p>2年2月現在、英検3級取得率51%、準2級10.2%。</p> <p>他にはない高い記録だが、校内や市に知られていなくて生徒が気の毒でもある。</p>
総合	<p>校外に出る活動が出来ていない</p>	<p>バーチャル校外学習として東京について調べ、実際に班で都内を巡ったこととして、壁新聞を作成する。</p>	<p>制限がある中で、生徒主体の活動が出来た。特にブチ運動会やダンス大会での実行委員の取り組みは、主体的で深い学びにつながったと思われる。</p>

道徳	深い学びのために、授業展開の手法を増やす	校内研修において、マイクロディベートなど様々な手法を学んだので、実践で生かしたい。	映像を活用したり、ホワイトボードを活用したりと、工夫して生徒が考える道徳ができた。来年度はタブレット端末やインターネットを活用しながら、「議論する道徳」をチャレンジしていきたい。
----	----------------------	---	---